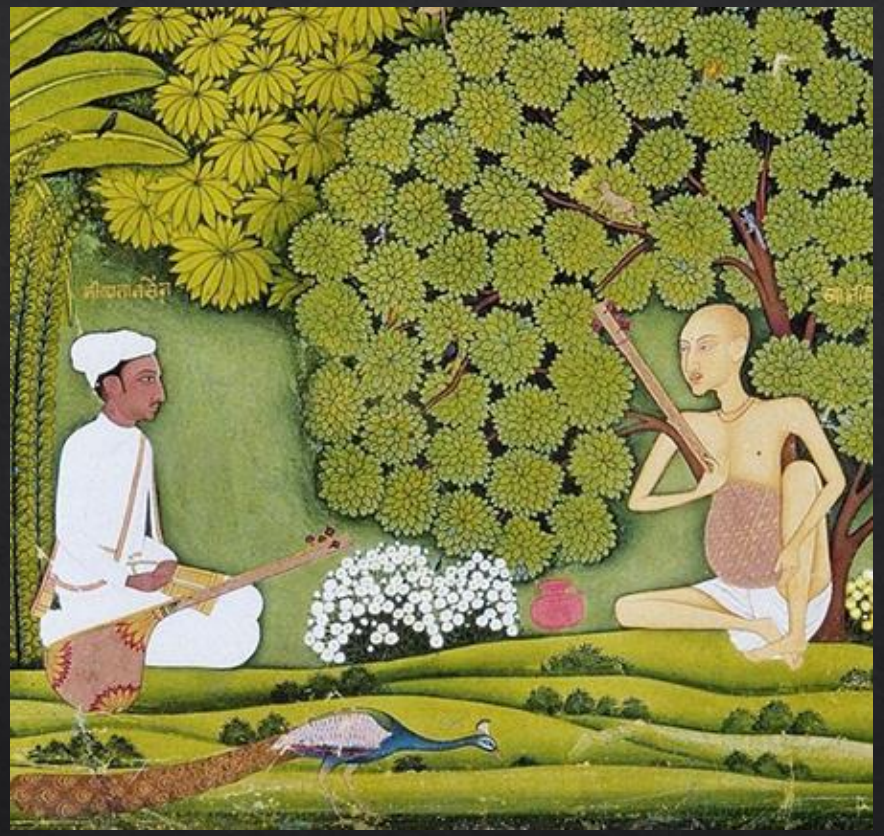


On-Demand
Courses

インド古典音楽奥の院：ドゥルパドの歴史

講師：Shree

文化は無からの創造ではなく、
伝統からの創造である。
過去を失うものは、未来をも失うだろう。

加藤周一（1919～2008年／日本の評論家、小説家。医学博士）

Kimiya Ltd.

Shree先生

【略歴】
大阪大学文学部美学科卒。1987年から約27年間、インド現地に多く滞在し、北インド古典音楽、サンスクリット語、ヨーガ、アドヴァイタ・ヴェーダーンタ思想を学び、1992年から、北インドのドゥルパド声楽をPt. リトウィック・サンニャルに師事。1997年、天空オーケストラのイギリスツアーに参加。さらに、南インドで10年間瞑想生活を送り、ドゥルパドの哲学的理念を深める。2013年より日本で音楽活動を展開。2016年にはPt. サンニャル師を日本へ招聘、2017年に日本ドゥルパド協会を設立。現在まで、国内外でドゥルパド声楽のライヴやワークショップ、多様なコラボレーションを行っている。

【アルバム作品】
CD:『サンキールタン』 2007年
『観・自・在 ~ ハートスートラ』 2019年

※その他参加アルバム、多数

Kimiya Ltd.

ようこそ Kimiyacastへ❣

このカタログでは、オンデマンドコースの授業について紹介します。
講義を通じて、異文化における芸術理解を深めましょう。

講義テーマ：

「インド古典音楽奥の院：ドゥルパドの歴史」

近年、経済的にも目覚ましい発展を遂げているインド。日本でも映画・料理・ヨガ・伝統医学・音楽・ダンスなどの文化が、多く紹介されてきました。しかし、メディアで取り上げられているのは、ほんの表層のみの情報です。

本講義では、長年インド古典音楽の分野で研究と実践を重ねてきたShree先生が、実際のデモンストレーションと共に、とても分かりやすく語っています。

Kimiya Ltd.

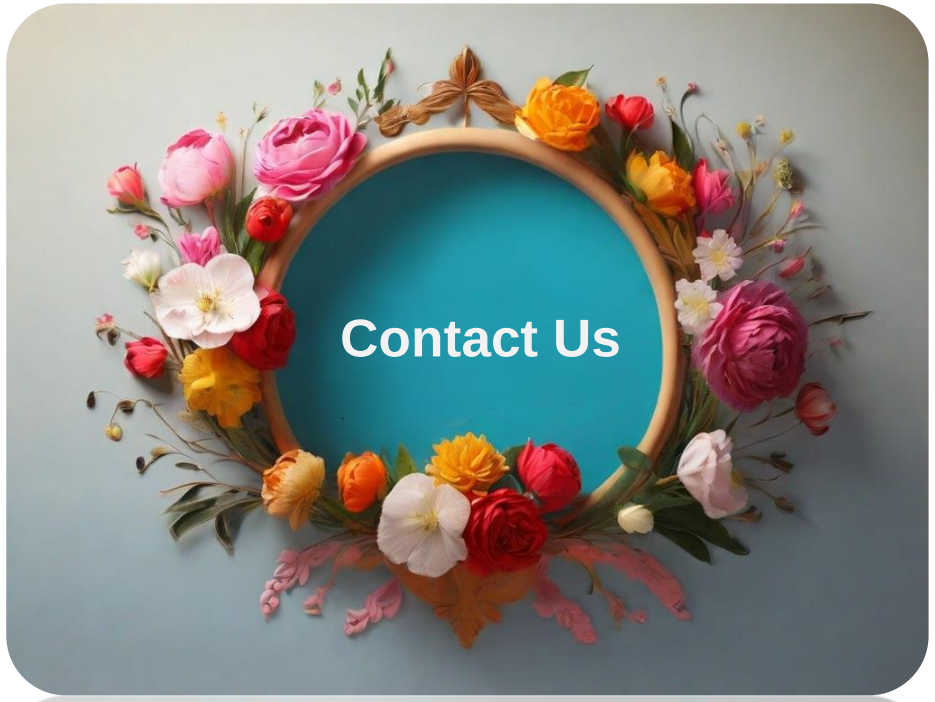
講義の趣旨

インドの古典音楽には、大別して北インドのヒンドゥスタニー音楽と南インドのカルナータカ音楽の、二つの体系があります。その両方とも、ラーガ（旋律型）とターラ（リズム周期）から成り立つ、西洋音楽とは全く異なるコンセプトでできた音楽体系です。

この講義では、ヒンドゥスタニー音楽の数ある様式の中でも最も古く、また、その他の様式の母胎でもあるドゥルパド様式をテーマに、インド音楽に親しんで行きます。

そして、この古くから伝わる芸術を通して、伝統の枠の中で、生きた芸術として時代性に合わせた変化を遂げつつ、継続していくことの意味を探ります。

Kimiya Ltd.



www.kimiyacast.com

ホーム

お問い合わせ

Kimiya Ltd.